



# 光星粘って競り勝つ

## 工大一、9回反撃及ばず



【八学光星―工大一】9回裏、工大一2死、三塁、一打逆転のピンチにマウンドに集まる八学光星内野陣。主戦森木(中央)が外野を見つめる。タイムンベールスタジアム

▽準々決勝 タイムンベールスタジアム  
八学光星  
0031 0000 0213 057

工大一

- △学 奈良、森本、中澤
- △守 山口、赤石、渡辺、黒田、澤口、鶴ヶ崎
- ▽本塁打 大橋2(学)
- ▽三塁打 小林(工)▽二塁打 松田、森下(学)
- ▽投手 藤尾(工)
- ▽ボク 渡辺(工)

### 気迫の森木9回しのぐ

#### 【熊鷹】

土壇場九回2死、八学光星のベンチが重苦しさを増した。3点を奪われながらも、三塁一発が

出れば逆転サヨナラ負けの悪夢がよぎった。たまたまマウンドの森木の元へナインが駆け寄った。「自分を信じるしかない。窮地に立たされた大黒柱はそう言われ、エウル。2球目は外角、3

球目は内角に外れた。疲れも、もう感じない。うなり声を上げ、無心で内角へ投げた4球目。「完全差し込まれた(杉山)という力強い打球は高く上がり、捕手のミットへと吸い込まれた。ゲームセット。思わずほっとしたような表情で喜びをかみしめた。昨年秋の県大会は利き腕の右手薬指を骨折し、

【評】3点をリードした八学光星は七回、森下の右中間への適時一塁打と森木の中前適時打で2点を追加。八回には大橋がこの日の本目となる本塁打を放ち、点差を広げた。先発奈良は5回無失点の力投。代わった番手の主戦森木が無失策の堅守に支えられ、ピンチをしのいだ。

八工大一は六回以降に打線がつかまり、九回は3点を奪って追い上げたが、あと一歩届かなかった。投手陣が14死球と制球が乱れたのも痛かった。

けが乗り越え2発  
○八学光星は、けがを乗り越えた主砲大橋が2本塁打2打点と活躍した。背番号「1」を背負ったのは今年からだ。「驚くような球も力もな

い。気持ちで補うしかない」と監督。その言葉を象徴するように、最後は気迫で勝利を呼び込んだ。それでも「もっと名前」のEースとして自覚を持たなければ」と失点を反省する森木。夏の大会3連覇を目指すチームにとって、主戦のさらなる覚醒は欠かせない。(松田啓志)

ベンチ入りはかなわなかった。背番号「1」を背負ったのは今年からだ。「驚くような球も力もな



ネットに直撃。八回は相手投手のデータから予想していた真ん中高めのスライターを見逃さず、左中間深くに特大の一打を放った。

180センチ、97キロと恵まれた体格の大橋は昨夏、腰の骨折で約半年間満身に練習できず、試合にも出場できなかった。今春にも骨折は再発した。それでも地道に練習を続けた。大橋は「腐らずに打ってきた成果が本塁打につながった。狙い通り打球は左翼スタンドの